友愛

発行所
友愛青年同志会
東京都文京区音羽町7の10
電話 大塚（941）2801
編集兼発行人　高野政利
定価　1部　10円

新年明けまして
御目出度うございます
本年もよろしくお願い致します。
友愛青年同志会
友愛婦人会
日本友愛青年協会

平和を築け友愛で

【共同通信提供】

明るく健全な社会を

会長　鳩山薫

皆様おめでとうございます。新年を迎えまして全国の皆様には益々お元気で友愛活動を進展されることと存じます。

友愛が十三年目を迎えるにあたりまして、皆様のお顔をともに想い浮かべますと一層の感慨が湧いてくるものがございます。発足当時のことを振りかえりますと、学生時代から友愛運動に専心されて組織普及や移動映画班等に自からの生活を犠牲にして、今日の基盤を作られたことは、友愛思想を深く理解する上に非常に貴重なものになることと存じます。しかし、当時の学生さんも今では三十代となり立派な社会人として大きく成長して参りました。そしてそれぞれの社会に責任あるお仕事と、意義ある生活をお持ちになったことを思いますと、少しづつではありますが友愛精神による社会への貢献が伺えるものと存じます。

こうしたなかで、全国の支部にある皆さんも、本部の人達も少しづつ若返りながら、それぞれの責任者が交代する時期がきているように見受けられます。既に友愛の基盤はできていると思われますので次代を引き継ぐ方達は、一層の努力と、漸新な感覚で友愛運動を展開しなければならないでしょう。それは簡単なようでも更に大変なお仕事だと思います。

友愛運動も年とともに大勢の方に知られ、これからの活動にも注目されていることと存じます。上辺だけの運動ではなく、しっかり地についた基盤の上に、内容のある運動を推進して頂き、多くの人の御協力で、立派な友愛理論と友愛思想を築きあげて頂きたいと存じます。

皆様には益々多忙な年であるかも知れませんが、内外ともに多端なことでもございますので、友愛精神をより良く理解し、将来の大きな希望をはっきりと見極めて、若返った皆様の努力によって明るく楽しい社会で、健全な毎日の生活をお送り下さるようお祈り申し上げます。

自由と秩序の世界

副会長　宮川三郎

皆さん目出度く新年をお迎へのことと存じます。

去年は不景気でしたが、今年は不況脱出の年と広く期待されています。政府もそのつもりだし財界も一般もそのつもりですから信じてよいでしょう。私共の選らんだ議会と政府がやると決めたことを日本国民として、それを信じないでどこの政府を信じようというのですか。

政府を信じる信じない、それは無論差支への無いことです。自由の本質は選択の自由ということですから、どのような政策を支持しても結構です。

併し吟味もせず選択もしないでは問答無用と言うことではないですか。問答無用で何のために議会に出る必要があるでしょう。抑々彼等は何を信じているのでしょう。社会主義ですか、共産主義ですか。ソ連ですか中共ですか。

◇

「流行の奴隷」と言う文字があります。流行と言うものは褒らいもので、それを作り出したのは人間なのに、作られて仕舞うと流行の方が主人になって人間の方が奴隷になるという意味なのです。

主義の場合も同じことで、作るときは人間が主人で主義は社会生活指導の便宜であったに過ぎないのですが、以後いつの間にか人間が不在になって、人間が主義の奴隷になって仕舞います。

◇

併し、流行の場は、それに同調している方がむしろ居心地がいゝ訳で、英語で言えば「ジョイフル・コンテント」だと申します。主義となると決してジョイフルなものではありません。快適どころかそれは鉄のくさりで縛ばられた極めて窮屈な状態であることはソ連でも中共でも世界周知の事実でしょう。

私達は何かの奴隷になるのは大嫌らいですし又人を奴隷にすることも大嫌らいです。

奴隷の居ない世界、選択の自由を失わない世界、しかも常に快適な秩序のある世界、それは私達友愛青年の希求する世界です。

皆さん 愉快に行進 致しましょう。

平和と共栄を願う

副会長　奥田吉郎

昭和四十一年は重要な年であるアジアにおける二大紛争であるベトナム問題、インド・パキスタンの衝突が、平和となるか、泥沼と化してしまうかの岐路である。ソ連を仲介としたインド・パキスタンの話し合いが実を結ぶことを、またベトナムにおけるアメリカの平和攻勢が見せかけだけに終らないことを願う人々の声は世界中に満ちあふれているであろう。

しかし、客観情勢はそれ程甘くない現状にある。カレルギー伯の平和論のように、戦争の要因を一つ一つもみ消して、その積み重ねの上に平和を達成すべきであろう。

特に昨年ようやく発足した青年海外協力隊が、長い目でアジアの平和に役立つことを願っている。

国内においても、不況が克服できるかどうかに国民の最大の関心が寄せられているが、四兆三千億の大型予算に伴う公共投資に期待をかけよう。

さて、今年は総理府に青少年局の実現をみたし、世界青年会議が東京で八月十日から開催されることになり、青少年運動にとっても重要な年である。青少年健全育成国民運動は、官制のお祭り騒ぎになりそうで、実際活動を展開している青少年団体や青少年指導者が参加をして内容を検討し直し本格的に盛りあげる必要がある。

友愛においても昨年新旧交代が行なわれ、新しい体制に入ったが正直昨年は受け継ぎ期間であり、今年こそは、漸新な体制で、組織にまた活動に全力を注ぐべきであろう。

重要な年は、私自身にもあてはまることになりそうである。鳩山先生の友愛思想を政治の場に反映させるべく会運動とは別に政治に進出する決意をしたからである。

御支援を御願いするとともに、諸兄の発展を祈って止まない。

3月の 組織倍加月間 に協力しよう

昨年十月末の第十七回全国幹事会において決定をみたように、この三月を組織倍加月間とする。

本年度は内部充実の第一年目として活動が開始された。六、七、八月の組織調査は友愛活動の問題点をある程度明確にしてきた。

しかし、その取り組みが充分でなく、また、本年度を組織拡充の年としようと謳いながらもその効多くなかったことは強く反省されなければならない。

だからといって、組織面における遅れに対して、手をこまねいて待っていては問題の解決にはならない。組織の拡大、会員の倍加は勿論のこと、会費の納入については、会組織の連帯感に影響を与え、友愛に対する理解度評価の基準ともなる。弱体化した組織に対しても、活動面の資料提供、巡回などをおこなってゆきたい。

ついては、左記の目標達成のための協力一致と、活躍を期待する。

記

一、組織の拡大

機運の盛り上った地域に対し随時本部役員、組織委員を派遣する。

一、会員倍加運動

全会員がカレルギーの書物、研修会、リーフレット、実際の活動等で自分のものとした友愛精神により、新会員一名以上を勧誘する。また、全国でこの月、多数会員を勧誘した支部、地区、個人は全国大会において表彰する。

一、会費納入運動

本会の会費徴収制度は会員の納入する会費がそのまま各組織の活動費・運営費となっている。また、今年度から改正された会費制度（詳細は本紙一四五号）が未だに全会員に徹底されているとはいい難いので、この面における衆知徹底の努力もおこたってはならない。

これに関連して、県連会費、支部会費、地区会費、個人にあっては会費を本部まで送付されたい。

一、弱体組織への対策

昨年六月から八月にかけておこなった組織調査を参考にし、地方巡回をおこなうと同時に、出版物（特に友愛情報）による活動資料の提供をおこなう。

直言

◆謹賀新年、こんなきまり文句で毎年が明けているが、大人になってしまうと当然のことなのかも知れない。大晦日から元日にかけてお酒を飲みっぱなしの人は二年酔とか、大人になると何かにつけてお酒を飲むことが習慣になってしまったようである。

◆子供の頃は、タコあげとか、コマ回しとか、羽根つき等が本来の遊びで、それができない奴は仲間に入れなかったような記憶があるが、とかく子供心に皆と同じことができない時はシャクなものであった。とにかく昔は広場も空地も充分にあったので、棒きれ一本あれば随分と楽しめたものであった。何と今は弾の飛ぶピストルがあり機関銃があり、勝手に走る自動車まであるのだから、金のかかる子供達ではある。やはり土地と金とは切れない縁にあるようだ

◆土地といえば白球弧を画いて飛ぶ雄大なゴルフ場は、美事な土地である。昭和三十九年十一月に東京で友愛ゴルフクラブが発足してすでに六回のコンペをおこなっている。直言子も参加はするものの更に腕のあがらないのは、スイングが正しくおこなわれていないからだそうな。唯広大な自然の美しさに引かれるのである。而！

◆自分の欠点は、一般的に理解できるが、いざそれを正せといわれても戸惑うばかりで、どうしてよいものかわからないものである。

大樹も風に折れ、緑の樹木でもどこかが腐敗していれば思わぬ時に落葉する時がある。樹木の育成でも彼等は彼等なりに自然の法にかなった発育があり、解明できない生命力がある。人体においても、部分部分の医学的根拠は解っていても、全部の統一とれた人体を作りあげることはできない。

◆人間関係もその不思議な生命力が解明されれば、一切の不和も戦争もなく、友愛に満ち溢れた平和が訪れるのであろうが、まだ今は幾重もの配慮と慎重な態度で望まないと葉っぱ一枚育てることもできないのではなかろうか。友愛運動もその意味では協力の上に努力を重ね、全国諸兄姉の統一された内部充実を展開して頂きたい。

直言子はなおも二年酔か、悪筆を詫びて、一層の健康を祈る。

世界連邦 日本青年協議会

早川委員長が再選

世界連邦日本青年協議会第六回定期大会は、一九六五年十二月十二日（日）午後一時から衆議院第一議院会館に、加盟団体から選出された役員（早川広中常幹が委員長、尾形智矩幹事長が組織局長）、代議員百十名（添野元晴常幹、越川隆幹事）が出席、来賓として衆議院議員麻生良方氏、自民党の岡本雅生氏、他多数が参加して開かれ、川崎秀二会長より大会基調の挨拶、感謝状の贈呈、高畑事務局長の一般経過報告を承認、新年度の諸方針を決定、宣言、決議の採択をみて、新役員を旧役員全員留任とし、早川広中委員長（友愛）の決意表明があって散会した。

大会は、世連学生協議会の中村義次氏の司会で始められ自民党青年部の三輪氏の開会の辞があり仮議長に世連国会研究会の魚本裕夫氏が就任、資格審査委員長吉田十次郎氏（自民青）より大会成立が宣言された。大会準備委員長早川広中氏（友愛）より準備経過報告が行われた。次いで会長川崎秀二氏より本会を代表しての大会基調演説をかねた挨拶が行われた。その中で会長は、世界に緊迫した気運が高い現在、世連主義者は戦争と平和の問題を真剣に研究し、この運動の重要性に目ざめねばならない、と強調し、更に世連運動の障害は戦争と平和の問題であり、イデオロギーの問題である。実際活動の面においても困難な問題が山積するが、我々はこれらの障害を超越する強い意志がなければならない旨、本運動に対する強い信念とたえざる前進を呼びかけた。ついで来賓、祝辞電報の披露を行い感謝状の贈呈を行なった。次に議長団に本会京都支部の坂泰幸（世連京都青年協議会）等を選出した。大会書記、議事録署名委員を決定して、大会運営委員長荒巻隆氏（副委員長）から大会運営報告が行われた。高畑事務局長の一般経過報告が行われた。その中に特にアメリカ大陸横断自動車遊説を通じて大きな成果を収め得たことについて先輩同志のたえざる協力に対する感謝の報告がなされた。会計監査報告の質疑のあとこれを了承した。議事に入り、第一号議案の一九六六年度運動方針について吉田十次郎副委員長（自民青）が提案を行いこれを決定した。

第二号議案、一九六六年度組織方針については尾形智矩組織局長（友愛）より提案があり、岐阜県代表勝真昭（友愛）等の活発な質疑、討論があり原案通り了承をみた。第三、第四、第五号議案が各局長よりあり、これを決定した。

以上で議事が終了し、続いて大会宣言、大会決議の採択があり、最後に新旧役員挨拶の次第に至り、役員選考規定に基づいて選考した結果を、村田選考委員長（シャトレー会）より旧役員全員留任の旨発表され、承認された。一九六六年度新役員を代表して早川広中委員長（友愛）より決意表明の挨拶が行われた。閉会の挨拶を岐阜県準備会代表の勝真照氏（友愛）が行ない、常任参与福岡喜一氏（前副委員長、自民青）の音頭で万歳を三唱して閉会した。

新宿西口
小田急
10時→6時 木曜定休

派遣隊員の壮行会

第一次海外協力隊が出発

日本青年海外協力隊第一次派遣隊員三十四人（うち女子五人）は十月十二日より約二ヵ月間横浜の外務省移住センターで毎日十時間のきびしい訓練を受けていたが全日程を終了しいよいよそれぞれの国に派遣され任務に着くことになった。

第一次派遣隊員の壮行会は十二月十一日正午より東京、新宿ステーションビルで政府関係各機関、各団体代表等多数が出席して開かれ本会からは尾形智矩幹事長が出席した。

壮行会は渋沢海外技術協力事業団理事長の開会の挨拶にはじまり篠浦公夫日本青年海外協力隊事務局長の経過報告並びに隊員紹介がおこなわれた。

つづいて政府を代表して橋本内閣官房長官の祝辞があり、隊員代表の力強い答辞があって壮行式を終了し壮行を祝すレセプションに入り午後二時閉会した。

なお隊員は十二月下旬に日本を出発しそれぞれの任地に向う。

情熱と実行力を養う

幹事長 尾形智矩

昭和四十一年の年頭にあたり新年の方向について提案したい。

第十二回全国大会において本年度の運動方針の中心として「組織内部の拡充強化」が決定された。そしてその方針に従い運動が進められて来た。新年の方向を考える際にまず静かに昨年の反省をしてみる必要があろう。

昨年は第三次東南アジア使節団の派遣、マレイシア女子留学生の受入れ、オーストリア青年運動会議との議定書の交換、日独青少年交換事業によるドイツ派遣、ハンガリーへの派遣等国際的には多大の成果をあげることができたしかし国内的には定められた事業はこれを消化してきたが、これは過去の踏襲であり組織拡充強化の年としては意欲を欠いていたと思う。内部体制強化のための具体的な案とそれを実行しようとする情熱が欠如していた。

以上のような反省の上にたって私は再度「組織内部の拡充強化」を提案するとともに具体的には次の方法でこの目標を実現していきたいと考える。

（一）友愛理論の確立と友愛思想と現代社会の結びつきについての研究

先に全国組織委員会が発表した全国組織調査報告書のなかの友愛理論についての会員の意見のなかで、（イ）友愛はこれだという決め手がない、（ロ）友愛精神の根本的理念を探求する段階に至っていない、（ハ）指針がはっきりしないというより解らない、ということが報告されていた。私は必ずしもこの意見に賛成ではないがしかしこれらの意見は十分に考慮されなければならない。本年は友愛関係学者、文化人の協力を求め、また政策委員会、カレルギー研究会を活発化し、全国会員の実践的な意見をとり入れこの問題にとり組んでいきたい。学者、文化人、政策委員及びこの問題に関心を持つ会員を含めて友愛理論委員会を設置することも考えられる。

（二）組織の拡大を積極的に展開する

全国組織委員会を充実強化しまた本部は常に新らしい組織開拓に意欲を燃やし気運の熟したところにはいつでもオルグを派遣出来る体制をとる。定期的に地方組織工作をおこなう。一方、社会構造の変化にともなう青年の動向についても調査し組織活動をおこなう場合の参考にする。

（三）既成組織の充実をはかる

まず第一に本部と支部・地区の連絡交流を密にすべきである。組織調査の報告によると（イ）本部常幹はもっと支部・地区を巡回せよ、（ロ）定期的に巡回してほしい、（ハ）地方巡回をするときは時間に余裕をもって来てほしい、（ニ）巡回のときは一県全体の支部長、副支部長クラスを集めて研究会をおこなったらどうか、（ホ）本部との結びつきを密にしたい、との意見が圧倒的に多かった。

次に学習、研修活動の強化である。友愛の会員一人一人が友愛思想を理解し友愛活動をおこなうならば自然に組織は拡大し組織内部は充実してくるのである。しかし現実はなかなかここまでではならず、われわれは当面友愛思想で武装された活動家を一人でも多く養成することである。従って本年は軽井沢講習を改革充実させ、また〝昨年で終了したブロック別におこなわれていた新生活運動研修会を全面的に改良し新企画で地方の活動家養成のために活用していく。県連、支部、地区が学習、研修活動を重視し実施するように働きかける。

以上私は三つの具体的な提案をおこなったがこれらは何も目新らしいものではなくむしろ常に提案され、常に叫ばれていることである。あえてここに提案したのは本年こそは具体的に予算的措置をこおじながら成果をあげようとの強い決意からである。われわれはわれわれの先輩たちが友愛山荘建設を提案しあらゆる苦労を乗り越え実現した情熱と実行力を評価し見習う必要がある。組織内部の拡充強化は全国の会員が一丸となってこれにとり組まなければその成果は得られない。全国会員諸君の積極的な協力を期待する。

都市勤労青年教育 指導者研修会

青年活動の基本方向

幹事 長田正太郎

このほど私は十二月六日から、十二月十八日まで、国立社会教育研修所の主催による、「都市勤労青年教育指導者研修会」に参加した。二週間という長い期間研修のために私を送ってくれたことに感謝し、その内容の一端を紹介し、諸活動の参考に供したい。

ねらい

この研修会の趣旨は、勤労青年教育指導者に対し、指導上必要な知識・技術の研修をおこない、勤労青年教育の普及と向上を図ることである。参加者は教育行政に携るもの（都道府県、市町村の青年教育担当者）、団体活動をおこなっているもの（本会などの団体）、職場で活動しているもの、の三つの分野から集められた。そこに、それぞれ違った立場の問題点を捕えてゆき、その中から青年の実態を把え、対策を構じることがこの研修会のねらいであった。

都市には種々特質がある。家庭生活、職場生活、社会生活において青年の歩んできた道は様々である。

その中で青年は家庭生活という背景を持ちながら職場生活、社会生活の影響を受けながら生活している。この点の究明により、青年の生活類型、生活意識、生活構造も解明されてくることになる。

同時に、団体活動ではその青年をいかに組織化してゆくか、また、活動の方法と内容をどうすすめてゆくか、施設を生かして使うには、と指導者の実践活動も要求される。そのためにはまた、青年の実態把握をしなくてはならないと相互に関連している。ここに青年活動のとり掛りがあり、活動発展への糸口がある。

内容

二週間の日程は朝九時半から始まり五時に終る。その内容は次の七つの項目に分けることができる。

① 青年の外面で進んでいる事情はどういうものか。
② その中で生活している青年に対して国はどう取り組もうとしているか。
③ 青年はどういう実態なのか
④ あるべき青年像とは
⑤ 方法論
⑥ 施設のあり方
⑦ まとめ（研修生の共同研究）

①の中には「経済発展における人間能力開発の課題とその基本方向」と題して、経企庁計画官 武藤正幸講師から「経済面に及ぼす人間の役割について述べ、特に教育に付いて日本と外国との対比がなされた。その中で①教育理念の社会化、②教育の計画化 ③教育方針の変化が世界的流れであり、日本の教育制度の再検討が望まれている。」と述べられた。また、「都市の特質と社会教育」と題して都立大学教授、磯村英一講師から「人間形成として都市を把え、地域的な面を考えて社会教育活動を把える見方」が述べられた。

②の中では都市青年の教育の現状とその問題点」と題して、文部省社会教育局 伊藤俊夫講師から「大都市に青年が集中している現状の中での教育とその問題点が説かれ、その取り組みが、社会教育白書にある」と述べられた。

③の中では国立教育研究所附属図書館長原田種雄講師と、東京都教育研究所岡田忠夫講師からそれぞれ「都市青年の生活構造と生活意識」「都市青年の生活に即した教育編成」が説れた。

④は文部省青少年教育課長、石川智亮講師、中青協委員末次一郎講師、日経連中山三郎講師、商工会議所岡部仙太郎講師によるシンポジウムとして、「現代青年に望まれるもの」がおこなわれた。

⑤の中では「グループワーク」日本YMCA名誉主事、永井三郎講師によって「グループの理解、グループプログラムの展開、グループ活動の指導グループ活動の諸問題等のグループ活動の基本的なもの」が説かれた。また「カウンセリングの原理とその心理及びその技術」として東大教授・沢田慶輔講師が「青年活動におけるカウンセリングの実際」を説き、キリスト教大学助教授・高橋和敏講師からは「レクリエーション指導法」として、原則とその実際が説かれた。

⑥として、中央青年の家所長、足立浩講師から「青少年施設論」が統計・資料を基にして説かれた。

⑦として、研修生が一日の日程を終った後毎日共同研究をおこなってきた。共同討議の中からどこでも問題点、これからの活動発展の礎となるものとして、「指導者養成計画」を作成した。

研修会を終えて

私は友愛に勤めて一年に満たない。だから活動そのものには皆の後について今日まで来たような感じがする。早く友愛活動の基本的な活動の価値を把みたいと思っている。それと同時に青年活動としての本会のあり方をどこに位置ずけるのか暗中模索の状態にあり、断片的な知識を得たに過ぎなかった。

そんな時今度の研修会への参加が決まった。実際、研修会に参加してみると、少なくとも青年活動について自分が今まで疑問に思っていたこと、断片的にしか理解できなかったことに対して、実に明解な解答を与えてくれた――考え方を体系化するのに多大な参考となった。そして、経験の少ない自分にとって、同じく研修会に参加している先輩方から体験談を聞いたり、問題点を話し合うことによって、経験では得られない多くの糧を得ることができた。

国立社会教育研修所のことは本紙一五三号に所長の二宮徳馬先生が書いておられるが、研修所そのものはほんとにささやかな存在かも知れない。しかし、この中で、私は私なりに青年運動に対する期待と、使命を感じることができた。日本の社会教育の歴史を荷負って、一歩一歩限りない将来の開拓に踏み進んで行く信念と自覚と土台が築かれたと思う。

そして、共同研究でおこなって来た指導者養成計画などはすぐにも本会の研修会へ応用できるものでもある。むずかしい問題ではあると思うが、研修会で学び得た内容を具体化し、本会の実際の活動に生かす方法を諸兄姉と共に考えてゆきたい。

ながいご愛顧
かがやく伝統
✻第一銀行

お知らせ

宮川三郎副会長が今年一月に本を出版しました。内容は随筆風の五十一編からのもので、日頃ゆっくりと宮川副会長と話のできない私達にとって、非常に親しく先生の人柄もしのばれて意義ある本だと思います。友愛に関しては山口県連大会と北海道連大会のお話が書かれています。市販されていますので是非御愛読下さい。

著書名 雑司ヶ谷雑記
発行所 東洋経済新報社
定価 四八〇円

毎月わずかなお積立金で
デラックスな楽しいご旅行

日本信販グループは、みな様が快適な、ご旅行をお楽しみいただけるよう心がけております。
旅行費用は毎月お積立下さい。信用組合の職員が集金にお伺いします。
旅行のプランはトラベルサービスにおまかせ下さい。

サラリーマン・事業者の銀行……………
信用組合 日本信販
本店 文京区本郷3－16－6 TEL (812) 4241(代)
渋谷支店 渋谷区中通3－33 TEL (402) 8351(代)

国内・国外旅行のコンサルタント…………
日本信販トラベルサービス(株)
本郷営業所 文京区本郷3－33－5 TEL (813) 7831(代)
銀座営業所 中央区銀座4-4 ゆうきやビル3F TEL (535) 6501

オーストリアを訪ねて
厳父の印象を胸に

常任幹事　柳沢定勝

オーストリア青年運動会議との議定書の交換は先月号に掲載の通りである。単身öJABならびにカレルギー伯と会ってきた柳沢定勝常任幹事が、その時の状況等を報告すると同時に、今後の交流に一層の理解をもつためにも、直接肌で感じた印象記を掲載することとした。今月は力伯に会った時の様子を、次号にはオーストリアの人達、そして三月には本会よりオーストリアに派遣された関係者による座談会を開いて総まとめとしたい。【編集局】

カレルギー名誉会長

力伯との初対面

ドイツを講演旅行中のカレルギー伯をハンブルグ、ベルリン、ミュンヘンと探して遂にフランクフルトに滞在していることをつきとめた私は、滞欧中の旅行予定を変更して急拠ウィーンから再びフランクフルトへ戻った。

町一番の高級な、しかし地味なホテルの一隅で約束の時間の来るのを待っていると、美人の秘書を連れた紳士が部屋に入って来た。伯の写真は見慣れていたので初対面ではあったが、この人がカレルギー伯だなと直ぐわかった。私に近づいて来て、やや高音な声で「ようこそ、遠い所をよく訪ねて下さいました。妻が腎臓を悪くしたのでミュンヘンに行けず、貴方の旅行を変更させて申し訳ない」と握手をしながら挨拶された。

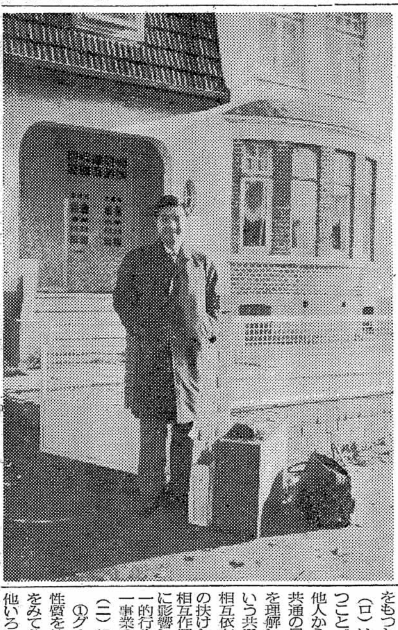
背はあまり高くないが（一米七十糎位か）体格のがっちりした人で身だしなみが大変良かった。伯は十一月十八日で七十一歳になられたそうだが六十歳代位のように若々しく見えた。

鳩山会長からのメッセージを手渡し、オーストリア青年運動会議との交渉経過を報告すると非常に喜ばれ、本会の"友愛山荘"とöJABの"ヨーロッパ連邦の家"の類似性などを指摘しつつ「私の思想を実行している会の連合を続いて作る考えがあればイタリヤにも紹介したい方があります」ともいわれた。

伯に手渡すように預っていった土産品を差出すと、一つ一つ封を開きながら「鳩山先生の喜寿の祝い」や「竹製のカフス」等を、日本を知らないオーストリア人の秘書に説明していた。その中に農家を形取った晴雨計があり、家の中から男が出ると晴、女が出ると雨になると説明したら「これは独国の晴雨計と全く逆ですね」といわれ、秘書が「何故女が出ると雨になるんですか」と尋ねると「それは日本から来たお客様に聞いた方がいいよ」と大笑された。

全国大会、常任幹事会、支部、県連の集り、学生部の活動などを持参した写真を披露しながら会の様子を伝えると、今までどうも連絡が不十分だったらしく、写真の一葉毎に魅かれ、特に学生部の会員が保育施設の子供と遊んでいる写真については興味を引かれたようで、厚生省の児童施設の資料を送って下さいと頼まれた。また「ボランティヤ活動が何を動機として起るか？私共の国ではあまり活発でないが」と言われた。会の説明が一通り終ると、伯から創価学会の会員数、動員力、参議院議員の数、現世的信仰の話をされ、内容は日本人である私が知っているより更に詳しく「ヒットラーより組織化がうまい」と話された。

こうして日本や、友愛や、個人的な話題にまでおよんでいくうちに私は伯と永年交友を続けて来た人達がするように、つもった話を気楽に、そして逢わなかった期間の出来事を身辺雑事まで話したい、聞きたいという気持にさえなってきた。話が車のことになった時、伯は一九三八年にゲシュタポの恐怖下に、オーストリアからスイスへ、また、フランスからスペインへ脱出し、自から自動車で亡命された話をされた。「現在は車の運転は？」と聞くと「現在は運転はしません。明日はハイデルベルグ大学で特別講議があり、普段なら車で行くのですが道が凍っているので汽車で行くことにきめています。宜しかったら一緒に参りませんか」といわれ、幸運にも伯と一緒に小旅行をすることになった。



【ハンブルグにおける筆者】

思わぬ小旅行

当代の偉大な思想家の一人である伯と一緒にいられる時間内に感じ取れるものを出来るだけ吸収し強く気持の上に焼付けておかねばならないと考えていた私は、二つ返事でOKした。秘書が来なかったので二人だけの旅を何か自分で手伝えることがあったら一生懸命してあげたい気持で一杯だったが、処が伯は、私が考えているより意外と力強く、しっかりとした足取りで四貫目程ある荷物を持ちながら私を案内して先に立った。

ドイツの列車は外側は黒いが中は割に座りごこちがよく、禁煙と記された部屋は席が三つずつ向い合わせになった一部屋で空いていた。列車は音もなく発車のベルもなくに静かに走り始めた。

私の隣りに腰を下した伯は「講議は原稿なしでする。紙を読むのは嫌だ」と言われ桃色のカバーをした、綿密に書込んだ原稿を読み始めた。

伯は日常は眼鏡を掛けていないが、本を読む時はフチ無しの眼鏡を掛けられる。服装は英国趣味のブルーの地に細い白のしまの入った洋服をピッチリ着こなし、白Yシャツ、ブルーの水玉のネクタイに黒い靴をはいている。横から見ると時折独文の原稿に加筆されている姿が印象的であった。

ふと前の席の人が、窓際に座っている伯に「窓を開けてよろしいか」と聞くと、伯はそれに答へず窓側から離れて座っている私に「窓を開けると貴方に何か支障になるようなことがありますか」と聞き直し、私の返事を待ってから前の老人に「結構です」と返事をされた。時々風が入って来ると高令者特有の軽い咳払いをされるので「扉や窓を閉めましょうか」というと「本当に御親切様」と丁寧なお礼を言われた。

私の洋服のえりに友愛のバッチを見付けた伯は、パンヨーロッパ運動のメンバーの印しにと伯の胸についていた赤い丸に金色の十字のバッチを呉れた。この印は太陽と十字架で、パンヨーロッパの旗でもあり、ヨーロッパ合衆国の未来の旗でもある。また、これは統一、自由、友愛とを示すもので一九二二年に制定されたのだそうである。

ハイデルベルク

駅に着くと学校から若い博士とその奥さんが車で迎えに来ていた。伯は女性に対しては貴族風に顔を下げ手に接吻をして挨拶をした。この若い博士は一般ドイツ人のようではなく、日本ではしばしば見られる光景だが、力伯より先に立って荷物を運び車のドアーを開いて伯を招じ入れ、伯を尊敬している態度が溢れ、見ていて気持がいいのと、何か日本的にさえ感じられた。

ハイデルベルクは独国で最も古い大学のある町で古城があり、小説アルトハイデルベルク（現地の人はヒと発音しない）から連想すると"良き旧きドイツ"に囲まれた町並を想像していたが、ウィーンを見馴れた目には意外と新らしく、さっぱりした落着きを見せていた。

ハイデルベルク大学に行く途次に大統領が宿舎に使う小さなホテルの前に車が止った。伯は講議の時間のうち合わせを政治学のスターンバーグ教授とすると、奥さんに長距離電話を入れ「今晩はこちらで泊らないで帰れるよ」と愛情こまやかな表現を使って帰りの汽車の予定を伝えていた。

伯の電話を待つ間、私は総支配人兼受付である黒い服を着た老人と雑談をしていた。このホテルは日本のホテルと比較すると全くもって小さく、良くいっても地味としかいいようのないホテルだ。しかし時間がたつにつれ落着いてくると、古風な時計がカチカチと静かに時を刻む音が聞えてきた。染付の陶器絵で飾られた楽器やステンドグラスなどが、周囲の褐色味を帯びた壁や、磨かれた真鍮と調和した木や、木の地肌を生かした此処の主人の良い趣味を感じさせる。

力伯の講義

大学の新校舎の入口に行くと「カレルギー氏による特別講議"ヨーロッパのたどるべき道"」と書いた案内が目に入った。

来賓室の入口まで迎えに出た教授達は力伯のカバンを持ち「雨の中を大変だったでしょう」といいながら準備の整った旨を伝えた。

伯は私の持参した友愛のパンフレットをわざわざ此処まで持ってきて、講義に出席する博士や、教授達に配り、友愛の組織や活動を自慢気に話した。そして東京から来た私を皆に紹介した。

この堅固な建物の壁には古城のエッチングが沢山飾られてあり、一周して見ているうちに講義の時間になった。伯に合図をしたが一向に教室へ出かける様子もない。同室の人達も夢中になって話込んでいる。丁度十五分過ぎると教授が「それでは行きましょう」と皆をうながした。ウィーン大学でも同様だったが、ここでも教授は"学校時間"を厳守していた。大学では教授が時間きっかりに教室に入ると重みがないとされているからだ。

講義は大きな講堂に学生と聴講生が三百人程いたが、政治学のスターンバーグ教授の熱烈な然し思慮深い配慮をしながら、力伯と私を紹介した。学生達はゲンコツで机を叩き歓迎の意を表はした。

伯は教壇に立つと机の両端をつかみ、ヨーロッパの歴史、特にドイツと諸外国の歴史、民族の構成文化、宗教等の類似性をあげて講演を始めた。途中で「ここに出席している柳沢氏もヨーロッパへ行って来るといって奥さんと別れてきたに違いない。彼はいまヨーロッパにいる。誰れか彼にヨーロッパという名の国を案内してやってくれ」と冗談をいい、学生達を笑わせながらも欧州以外の人々は欧州の小さな国々の集りをヨーロッパと呼んでいるのに、何故ヨーロッパ国を作れないんだという調子で講演は進められた。

伯の話の後、教授、学生達が数人意見と質問を出した。それは「力伯のいわれるヨーロッパとは地理的な分け方によるのか、それとも政治的分類によるものか」「英国は含まれるのか」「ヨーロッパ合衆国ができた時、独国はその中で独国自身を守れるか」「独人にどんな利益があるか」「それにはどんな法律を作るべきか」等の鋭い質問が矢継ぎ早やに出てきた。その度ごとに質問に同意する人々は机を叩き、反対の人は口笛を鳴らした。伯はそれ等にいちいち、英国は昔から入れない事情があるがやがて入るべきである。ヨーロッパとは文化圏で分類したものであり、英国は入り、ソ連は入らない。東欧は国民の自決に任すべきである。等と実際家らしい答をした。時には理論家的傾向の学生の満足する答でない時は学生達はブーブー文句をいった。こんな時伯はラテン語（らしい）の笑い話で皆の緊張をほぐし、教授達にもうなづかせた。

この議論は夜の十時まで熱烈におこなわれた。スターンバーグ教授が終りを告げると、伯は水をコップ一杯について、うまそうに飲み干した。講堂を出た伯の肩は興奮のためかやや上下に動いていた。貴賓室にもどるとスターンバーグ教授は「遠いところをはるばる来て、有難う」と礼を言われた。私は「どうぞ私には試験を課さないで下さい。先生の試験には落第しそうですから」と冗談をいって大学を辞した。

力伯との別れ

帰りの汽車は可成り遅れた。雨がみぞれになった。プラットホームの端まで時刻表を見に行った伯は「寒いからホームを行き来しましょう、少しは温まるよ」と言って先に立って歩き出した。素手でかじかんだ手をポケットに入れたまま、止むなく歩き出した私をかかえるようにして、友愛の会員数はどの位になった。青年達は成長したか。財政的援助はあるか。等と話しかけた。動物園の白熊のように同じ場所を行ったり来たりしているうちに列車が入ってきた。

翌朝七時に帰国の挨拶の電話をすると力伯が直接でて「もう二時間前から原稿書きをしている。私にとってもう早朝ではないよ。帰ったらマダム鳩山と会員の諸君に宜しく伝へて下さい。遠いところをはるばる来てくれて有難う。家族の皆さん特に子供さんに宜しく」「伯が日本に来れないのは残念ですが、この次からは日本から青年が大勢伯に会いに来ますよ。又会いましょう」といって電話を切った。

生来の悪筆で伯を浮き彫りにできない。しかし印象を一言でいへば、きりっと洋服を着たさむらいか、慈顔と厳しさをもった厳父といったらよいか……。

力伯と三日を過したフランクフルトをたった私は、事実親父と別れたような気持になった。

本会組織のあり方

中

特質と性格を理解
責任感と計画性を育てる

前回は組織概論ともいうべき一般的な組織論、すなわち組織の定義と、ドイツ国家社会主義労働党（ナチス）の指導者、アドルフ・ヒトラーの組織論、新興宗教創価学会の組織論について書いたが今回より本会の具体的な組織活動のすすめかた、支部活動のありかたについて考えてみることにする。

組織活動を積極的にすすめるためにはまず組織の特質と性格を理解することが必要である。

（一）組織の特質

①団体とは何か（グループと呼ぶに必要な要件について考えてみると、（イ）団体意識、グループ意識が必要である。すなわち共通の目的をもつという意識的結合である。（ロ）はっきりしたメンバーを持つこと。会員と非会員がはっきり他人からも区別されること。（ハ）友愛思想共通の目的をもつこと。友愛思想を理解し、友愛社会を実現するという共通の目的を持つこと。（ニ）相互依存関係が必要である。互いの扶けと協力を必要とする。（ホ）相互作用関係が必要である。互いに影響し反応し合うこと。（ヘ）統一的行為能力を要する。多数で同一事業の達成を分任する。

（二）組織の性格

①グループは自身の中に異った性質を持っている。例えば構成員をみても職業、年令、性別、その他いろいろと異った性質を持っている。

②グループは変化する。外部的要因（社会的、経済的変化）、内部的要因（会員の入れ代り、人間関係の消長）によって移り変ってゆくのである。

組織の特質と性格の理解の上に立って"しっかりした組織とはどのような組織をいうのであるか"について考えてみたい。

（三）しっかりした（模範的な）組織とは

①団体、グループ（友愛青年同志会支部・地区）が会員の自覚はもとより、第三者からも認められること。特に地域社会の住民に認められ評価されること。

②事務的事項がきちんと整理され、おこなわれていること。事務所の表示と看板、会員名簿、役員名簿、文書の保存、整理、行事の記録、宣伝、会費と会計簿などが整理されていること。

③例会が継続的にもたれていること。グループの会員が例会に出席し話し合いに加わることに意義がある。

④民主的に会や行事が運営されること。話し合いを通じてグループを運営してゆく。

⑤行事は必らず幾人かの分担者の協力で行なわれていること。一人または数人の中心的な人物ですべてを行うことは避けねばならない。

⑥行事は意欲的にしかも継続的に実施されていること。会員の発意と献身と心からなる支持によって行事は実施され継続される。

⑦グループリーダーの他に助言者をもっていること。社会教育に関心の深い助言者、賛助者をもっていること。

以上七点が十分考慮されそして実施されている組織は"しっかりした組織"といえよう。

次に本会の支部活動は如何にあるべきかについて考察する。

（四）支部活動のすすめかた

①支部活動をすすめる上での具体的事項。支部活動を実際的にすすめる段階においてはまず（イ）プログラム（プラン、スケジュール）の立案から入らねばならない。

行事の趣旨、目的、性格を明確にする。働きかける対象と範囲、参加メンバーの数を考える。実行可能な妥当な線で考える。経費の捻出（参加費、物品の提供、広告）、場所（公民館、学校、公園、同志の家等）、資料（教材、要項、歌集、旗、スポーツ用品等）、期日時間（相手の都合、交通、季節、天候）について検討する。行事にいろいろ工夫をこらし変化をもたせる。仕事の分担をはっきりさせる。（ロ）実行過程における検討と確認をくりかえす。

会員、共済者、関係者、本部への通知もれはないか、会場は確保されているか、経費は間違いないか、資料は準備されたか、司会者、発表者、記録、助言者は揃っているか、届けが必要な時それは済んだか、責任者に確認。行事全体のどこかに無理はないかを検討し、責任者間の打ち合せをくりかえす（ハ）反省と評価と報告は大切である。

反省と評価はその後につづくプログラムと密接につながるものである。各責任者は予定どおり任務を果したか、効果のあった点、無理であった点は何か、更に工夫すればもっと良かったと思われる点、後仕末はきれいにしてきたか、友愛の原則に反することはなかったか、次回に改善すべき点は何か、お礼状や報告、届出はどうするか、等を考慮すること。

②支部運営について。支部活動を活発化させ支部を発展させるには支部の運営に気を配らねばならない。（イ）運営が民主的でなければならない。人数や活動充実も大切だが、支部長中心、執行部独走では永続きしない。（ロ）大衆的でなければならない。会員や地域社会、一般社会の意志の反映に心がける。（ハ）責任性が必要である。仕事の任務、範囲、権限を明確にし責任感をもつと同時に責任を果すこと。（ニ）プログラムを発展させること。同じ行事をくり返すのではなく新らしい企画をとり入れプログラムを発展させる（ホ）話し合いの技術および理解感情、連絡、通信をいかにスムースに流通させるかについて気を配ること。高度に専問的なことをさける（用語、行事、資料）。特定人以外に通用しない会話をさける。やさしいことから専問的なことへすすむ。相互のパイプをつまらせないこと。（ヘ）カンセリング、アフターケアー。新入会員を大事にし早く皆となじませる。反省と評価をきちんとする。特に礼状、報告、挨拶は大切である。（ト）リーダーシップ。リーダーの要件——責任感、規律ある態度判断と決断、人事管理能力（人の和を保つ、長所をたたえる）。リーダーがその役割りと責任を果すことは肝要。常に新らしいリーダーを養成し新らしいリーダーに責任と権限を与える。（チ）リーダーの役割りは重要である。リーダーはグループを育てる（結びつきを高め、分派を押え自主性を高めグループの目的を向上させる）。グループを守る（世人の誤解から来るグループを破壊するような者が入り込まないように守る）。グループを助けプログラムを発展させる（行事中心ではなく会員中心で考える）。（リ）同志をたたえる会員の努力、能力、長所、仕事をほめたたえはげます。【つづく】

地方だより

千葉支部　慈善パーティー
恵まれない人に益金を寄付

【千葉発】千葉支部（支部長＝越川隆君）では、去る十一月十二日（日）「友愛慈善パーティー」を千葉市社会センターにて開催した。

当日は、参加者百六十余名を得て盛大なパーティーとなった。このパーティーは、恵まれない人々に少しでも援助することを目的として企画されたものである。

この趣旨に賛同した沢山の千葉市民は、楽しそうに千葉支部の会員と一晩を過した。

このパーティーの収支決算は次の通りである。

総収入　三万七千三百円
総支出　二万一千七百二十三円
収益金　一万五千五百七十七円

このパーティーでの収益金は朝日新聞社千葉支局を通じて寄託金として寄付をした。

なお、前月におこなった「慈善バザー」での収益金は、宮内三郎千葉市長の助言により市にいる沢山の生活保護者に寄付することになった。

秋山貴慶事務局長談＝前月の慈善バザーに続いて、第二弾として慈善パーティーを開催したが、会員並びに市民の暖い御支援により両回とも成功させることができ、たいへんうれしく思っております。今後も、自分達という狭い範囲から友愛精神に基いた相手の範囲にまで活動を発展させたいと思っておりますので、なお一層の皆様の御協力を御願いする次第であります。

組織訪問

北海道・登別支部

美化運動を中心に

湯元登別地獄谷からなだらかな坂道となっている温泉市街地の中央に大きな店構えをした購販商会がある。その奥まった一室が友愛のマークも彩やかな書棚を置いた登別支部の事務局である。

昭和三十八年三月支部結成を見る前は、地域青年団（当時新樹会と名乗っていた）が風前の灯のように細々と活動を続けていたが、たまたま道連でも本部でも名の通っていた札幌の高橋吉治君（現三浦支部長）が結婚されて登別へ来られ、三十八年一月当時新樹会の宮崎隆君と地元募集のニセコスキーの旅でニセコの山小屋で同室したのがきっかけであった。その後新樹会会員を説得につぐ説得で、わずか二ヶ月足らずで支部結成となったのである。会員七十名で動き出した登別支部は地元の組織としては巨大であり、一般町民の受け方はまちまちだった。しかし友愛精神の普及を基本として、社会福祉、社会教育、郷土美化、国際交流の四つの柱を立てて進んだ時我々に寄せる期待は大きかった。

中でも四月から十月までの地獄谷清掃、夏期秋期二回の町内薬剤散布、十二月の歳末助け合い運動等は好評だった。地元新聞にはわれわれの活動がたえず掲載され、読売新聞にも「郷土を美しくしよう」というテーマの座談会が前後二回に分けて載り、またNHKラジオの昼の三十分番組にわれわれの清掃活動が放送され、会員の鼻は大いに高かった。そして8ミリ、録音テープ、写真を大いに使って支部活動を記録して保存する事にも抜かりがなかった。

この三年間では会員のメンバーも大幅に変り、結成当時の会員は十名足らずであるが、このように目まぐるしく変る青年団体をまとめていくのは並大抵ではない。登別支部もどうやら軌道に乗った形である。将来は山荘も建設される事が予定されており、山荘と合せて益々幅広い活動が約束されよう。【事務局長　砂川吉弘】

仁多支部　郷土学習会

【仁多発】仁多支部（支部長＝藤原東雄君）では、去る十二月四日（土）午後二時から横田町中央公民館において支部例会及び学習会を開催した。

とかく郷土の良さを忘れ勝ちのため、また、自分達がその社会と結びつくためにも郷土歴史研究家の高橋一郎氏を講師に迎えて話しを聞いたり、懇談し改めて郷土の良さを認識した。

関東学生部　親睦の集い

関東学生部（委員長＝宮崎久男君）は去る十二月二十五日に市ヶ谷ユースホステル四階会議室で十一時から三時迄クリスマスパーティーを開催した。当日は、先頃欧州から帰国した都連会長柳沢定勝常任幹事を講師に招いてカレルギー名誉会長の近況、オーストリアの様子等についてエピソードや写真を折り交ぜた講演を約一時間傾聴した。その後パーティーに移りキャンドル片手に「聖夜」を合唱しコーラで乾杯した。宮崎委員長事務局長早川淳子さんの挨拶、会員相互の自己紹介を経て各自持参してきたクリスマスプレゼントの交換をした。そこで包みを解くとビックリ箱が飛び出したりして会員一同爆笑する一幕もみられた。一時頃に多くの要望により四年生会員の話を聞くことになり、過去四年間の友愛活動についての回顧談、苦心談を述べたり質問に応じたりして参考になる話をされた。次にゲームに興じたが面白い余興などが飛び出したりして皆の喝采を浴びた。

ケーキ、菓子などをつまみながら楽しく和気藹々の雰囲気の中に過している内に三時には閉会となった。今回のクリスマスパーティは直接カレルギー名誉会長に会ってこられた柳沢定勝常任幹事の意義深い講演により会員の友愛についての認識がさらに深められ、又会員相互の親睦を計る上にも少なからず役立ち成功裡に終った。

市川支部　ダンスパーティー

【市川発】市川支部（支部長＝今関勇治君）では去る十二月十五日（水）五時から二十七名の会員を集めて市川市マルミ喫茶店にてダンスパーティーを開催した。

市川支部では以前から支部の中のサークル活動として社交ダンスがおこなわれていた。そこで、今回、会員間の親睦と協調性を増すことを主眼点として、この会が開かれた。副支部長の村松君の司会で自己紹介がなされ、ダンスの途中で会員同志でおみやげ交換をおこなった。そして、楽しく、和かなうちに 会員間の融和が 図られた。

村松英幸副支部長談　本支部は七月にできたばかりであり、まだまだ活動についても解らない所もある。そして、友愛思想を実践してゆくために、本年は一応会員の親睦に重きを置いて来た。今回の企画はその意味で大いに効果があったことと思う。来年からは、学習会などを中心として、友愛思想の体得に努めたい。

都連茶道部　親睦会

去る十二月十九日文化活動グループの一つである東京都連茶道部（部長＝田中祥子さん）では神田神保町の喫茶店ピッコロにて「クリスマス・パーティー」を開催した。

当日参加者は四十余名で夕方から夜まで会員同志の親睦を兼ねてパーティーをおこなった。

参加者は、楽しそうに、お互が友人で あるかのように 踊っていた。

また一方、踊れない人々は、皆で「友愛」について語り合っていた。

最後に「ほたるの光」に合わせて最後のダンスを踊った後、楽しい思い出を胸にひめて帰途についた。

高萩支部　懇親会開く

【高萩発】高萩支部（支部長＝大崎脊人君）では去る十二月十一日（土）午後六時半から、高萩市松風館にて懇親会を開催し、三十名の参加があった。他に下山田行雄氏、本部から地方対策部長、長田正太郎幹事が出席した。

支部ができてから八ヶ月になりその間、茨城県青少年室長根垣氏エジプト考古学の権威、鈴木八司氏による二つの講演会、会員によるキャンプファイヤーのつどい、三市一町（北茨城市、高萩市、十王町、日立市）の青年団体による研修会において〝青年のおかれている条件について〟〝青年の組織活動とその問題点について〟が討議されたなどの報告が横山正貢事務局長よりなされた。

引き続き忘年会をおこない、会員同志の親睦を深め、農業問題、友愛活動について等の話しを肴にして盃を汲み代わした。

中央日誌

12/2　核禁幹部会議（後二時・於共済会館）
4　ブロック別青年研究協議会（日青館）
5　J・Y・H今井君結婚式（於椿山荘）
6　都市地区勤労青年教育指導者研修会（18日まで、於国立社会教育研修所）
7　早朝懇談会（前六時半・於谷中）
婦人会定例役員会（後一時於はなれ）
都連幹事会（後六時・於本部）
8　友の会和裁のつどい（於はなれ）
若人の森理事会（後二時・於日青館）
11　中川治男常幹結婚式（後一時半・於椿山荘）
日本青年海外協力隊派遣記念壮行会（正午・於新宿ステーションビル）
高萩支部懇親会（後七時・於高萩）
執行部会議（後五時・於本部）
12　世界連邦日本青年協議会定期大会（後一時・於衆議院会館）
千葉支部チャリテーダンスパーティ（後五時半・於千葉）
13　国際交流協会評議会（後一時・尾崎会館）
14　第八回常任幹事会（後六時・於本部）
15　総務長官を囲む懇談会
友の会和裁のつどい（於はなれ）
オリンピック世界青少年キャンプ理事会（後六時・於町村会館）
16　第四次使節団日程打合せ（後六時・於本部）
19　茶道部クリスマスパーティー（後六時・於ピッコロ）
福岡支部再建準備会（前十一時・於背振友愛山荘）
20　編集会議（前十時・於本部）
22　核禁事務局会議（正午・核禁事務局）
23　核禁幹部会議（後二時・於共済会館）
若人の森建設委員会（後一時・於日青館青年ルーム）
25　関東学生部クリスマスパーティー（前十時・於市ヶ谷Y・H・）
28　第七回政府海外派遣団アジア中班および東班壮行会（正午・於総理府）
仕事納め

しあわせの遊園地

馬場登代光

どんぐりの木の下で
こぼれる陽に集まる蟻の群
彼らは何を考え
何を思っているのか
ささやきあう恋人のデート
家族づれのピクニックか
街に国会に日曜ごがらし
吹きすさぶさなか
外気の騒音も知らない
しあわせの遊園地で……

★割引債・期間1年・年利回り6分2厘余
ワリコー
★利付債・期間5年・年利回り7分3厘
リッキー
日本興業銀行
東京・千代田・丸の内1の8

原子力発電所から
お台所まで
富士電機製造株式会社
■原子力用設備
■発変電用設備
■一般工業用設備
■家庭用電器
本社・東京都千代田区丸の内1の1
電話・（211）7111（大代表）

しあわせの夢
みんなの東武
東武デパート
池袋駅西口・TEL 981−2211・月曜定休

東京から……
九州まで
全国10店を結ぶ
丸物グループ
●東京・沼津・浜松
豊橋・名古屋・津
岐阜・京都・八幡
池袋駅 丸物
電・代（981）2111

銀座松屋は
流行の出発点
TEL（561）3111・4111
銀座 松屋

洋紙一般・白板紙
段ボール原紙
本州製紙

石油の輸入販売
APOLLO
ガソリンはアポロ
DAPHNE
オイルはダフニイ
出光興産株式会社
社長　出光佐三
本社　東京銀座東四丁目

楽しいお買物は
UENO
GINZA
上野 銀座
松坂屋